

Study に於いて 18 要素からなる *therblig* という「基本的要素」が考案されており、又、家庭経営活動に於いてもかかる努力(要素)の種類や結合の必要性は *Dorsey & Nickell* 等によっても指摘されている所であるが、これらの諸要素の結合、転換には、それらの諸要素間の関係の本質的解明を前提とする。

この点につき、*R. Laban & F. C. Lawrence* はその共著 *Effort* に於いて、*selection* や *training* の諸方法以外に *individual effort* の本質的究明を重視し、「人間の *bodilyengine* の機能に於いて表現された *effort capacity* とそれらの経済的能率的適用を支配する原則の研究」をめざし、8 箇の *basic efforts* の結合からなる *Weight-Space-Time control pattern* を示している。吾々はこれらを検討導入することによって生活時間分析への、更に又、生活行為原則究明への途に *Approach* せんと試みるものである。

26 生活行為の基本的要素について

—*R. Laban & F. C. Lawrence* の *Effort* の考察—

東京大経 松下 英夫

家政学研究に於いて生活行為の技術的原則の独自性についての一試論は前に報告〔拙稿「家政学の将来と課題」(家庭科学第二十五集)〕したが、このためには吾々は先ず生活時間全体に亙って連続して発現する生活行為を共通ないくつかの根本的要素に分解、結合して、測定、評価、訓練し得る分析的用具としての「基本的要素」の研究が必要となるであろう。

尤も、これらは既に工場其他の企業経営の作業研究として *Taylor, Gilbreth* 等による *Time and Motion*